

第200回（令和2年11月22日施行）

基礎簿記会計

第1問〈帳簿記入についての出題〉

帳簿の対象となる取引（帳簿に記入すべき出来事）の理解を確認するため、簿記上の取引を判断する問題を出題した。

1. 店舗にある商品が破損し、廃棄した際における、商品という資産の減少についての判断を確認している。
2. 取引銀行との借入契約を結んだ時点での判断を確認している。
3. 倉庫建設工事の着工前の見積額の通知を受けた時点での判断を確認している。
4. 駐車場の賃借契約における駐車料金を現金という資産で支払った時点での判断を確認している。

第2問〈簿記の出発点である仕訳（複式記録）を問う出題〉

帳簿記入のための手続きは、仕訳帳に記入することから始まる。そこでの仕訳とは、取引によって増減変化した資産、負債、純資産（資本）、収益、費用の勘定科目を、金額と共に左側（借方）または右側（貸方）のいずれかに記入するかを決定することである。ここでは基礎的な取引について仕訳の理解を問うている。

1. マンション管理組合が管理費を集金した取引である。管理費収入（収益）の発生と現金（資産）による集金の記帳を問うている。
2. マンション管理のための管理人事務室で発生した電話料金を支払った取引である。現金（資産）による支払と、通信費（費用）の発生の記帳を問うている。
3. マンション管理組合が預け入れている銀行預金（普通預金）に利息が発生し、その利息が預金口座（普通預金）に入金された取引である。受取利息（収益）の発生と、普通預金（資産）の増加の記帳を問うている。
4. 商品売買業者（雑貨販売）が商品を購入した取引である。購入した商品（資産）と、購入代金を後で支払う債務である買掛金（負債）の記帳を問うている。
5. 商品売買業者（雑貨販売）が商品を販売した取引である。商品（資産）を販売し、引き渡すことによって商品販売益（収益）を獲得する記帳、また商品代金の一部を現金（資産）で受け取り、残りを後払いで受け取る債権である売掛金（資産）を得た際の記帳を問うている。
6. 後払いで購入した商品の代金を現金で支払った取引である。買掛金（負債）の減少と現金（資産）の減少の記帳を問うている。

7. 銀行預金（普通預金）から現金を引き出した取引である。普通預金（資産）の減少と現金（資産）の増加の記帳を問うている。
8. 従業員に現金で給料を支給した取引である。給料（費用）の発生とその支払いに充てられた現金（資産）の減少の記帳を問うている。

第3問<日記帳から元帳への転記に関する出題>

帳簿の基本的な形は、日々の取引を記録する日記帳と、管理すべき単位（勘定）の記入簿（元帳）の2つである。本問では、日記帳としての仕訳帳に記入されている取引を、勘定科目がまとめられている元帳へ転記するという手続きを問うている。適切な勘定科目の勘定口座の借方または貸方に、日付、相手勘定科目、金額を適切に記入できるかを試している。解答に際しては、【解答にあたっての注意】にあるように、指定された解答欄に適切な用語または数字を記入することに注意する。

第4問<会計報告書（収支計算）の作成に関する出題>

1か月の収支計算を示すことによって会計報告を行う場合には、前月繰越金から出発し、報告する1か月の活動による変動を経て、次月繰越金に至ることを示す会計報告書を作成する。

本問では、現金出納帳の記帳からバレーボール同好会の会計報告書（勘定式）を作成できるかを問うている。解答に際しては、【解答にあたっての注意】にあるように、複数ある支出項目について、指定された順番で記入することに注意する。

第5問<会計報告書（損益計算）の作成に関する出題>

期末の会計報告は、期末の財政状態を示す貸借対照表と、当期の経営成績を示す損益計算書の2つの会計報告書を作成することによって行われる。本問では、与えられた元帳の各勘定科目の残高から精算表を作成できるかを問うている。解答用紙にあらかじめ示されている勘定科目について、借方残高であるのか、貸方残高であるのかを正しく判断できているか、そして作成した残高試算表欄から損益計算書欄と貸借対照表欄を正しく作成できるかを試している。